

第一線で働くプロにクローズアップ! 気になるあの仕事について調べてみました。

シゴト図鑑

vol.38

中学校教諭

英語や国語などの教科だけでなく学校生活全般を指導し、幅広い仕事を担う中学校教諭。義務教育の仕上げ段階として学習の定着を図りながら、思春期の生徒たちの精神的なサポートにも情熱を持って向き合う。仕事への思いとは一。

勉強法

ALT（外国語指導助手）と交流し、ネイティブの英語に触れて技術向上につなげている。お互いに興味を持てる漫画など、身近なことを話題にしている。

気分転換

友人に勧められ興味を持ったゴルフ。コースに出たら自然が豊かで楽しかった。打ちっぱなしで腕を磨くことも。

こだわり

教室に無駄なものが無いように片付け、学習環境を整える。生徒と一緒に掃除してきれいになり、締め切り期限が過ぎた掲示物などを片付けたりする。

勉強法

いろいろなスポーツを見る。県内にあるプロスポーツは実際に観戦したり、テレビで見たりするほか、校内の別の部活動を見学する。

気分転換

ドライブ。映画館に映画を見に行く。自己啓発やリーダーシップについての本や、スポーツ選手の自伝を読む。

醍醐味

生徒の成長を近くで感じられる。うれしい、楽しい、悲しい、くやしいと思っている瞬間の感情を、一緒に共有できる。

竹田市久住中英語科教諭
佐藤 千春 さん(26)

PROFILE／

竹田市出身。竹田高、福岡教育大教育学部共生社会教育課程（当時）卒。2021年、採用。久住中は初任校で、現在2年目。2年生担任、バレー部副顧問。中学校・高校教諭1種（英語）、司書教諭の免許を取得。

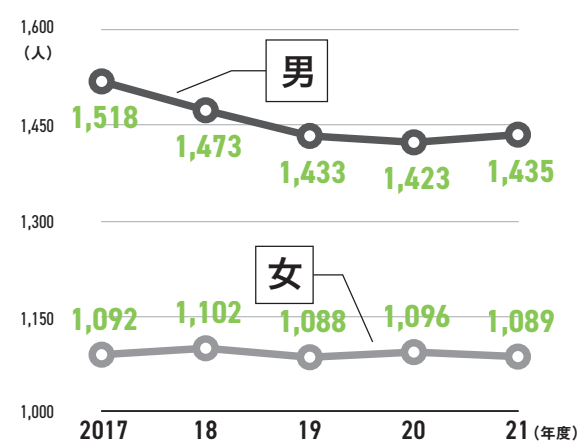
別府市別府西中保健体育科教諭
阿部 翔 さん(31)

PROFILE／

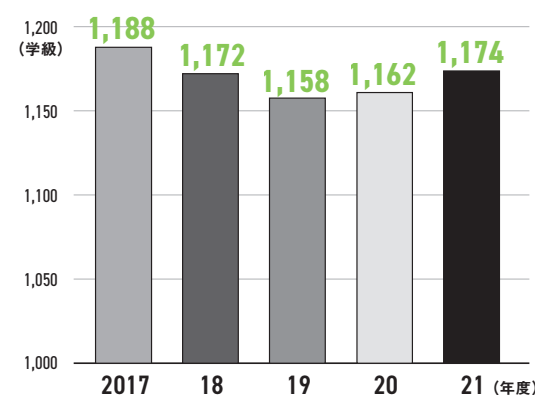
杵築市山香町出身。杵築高から大分大教育福祉科学部（当時）へ。学校教育課程保健体育選修卒。2017年、採用。21年の開校時、別府西中に着任した。本年度、3年1組担任、生徒会、陸上競技部顧問。免許は中学・高校教諭1種（保健体育）、小学校教諭1種を取得。

データで見る県内の中学校教諭（2021年度学校基本調査確報より）

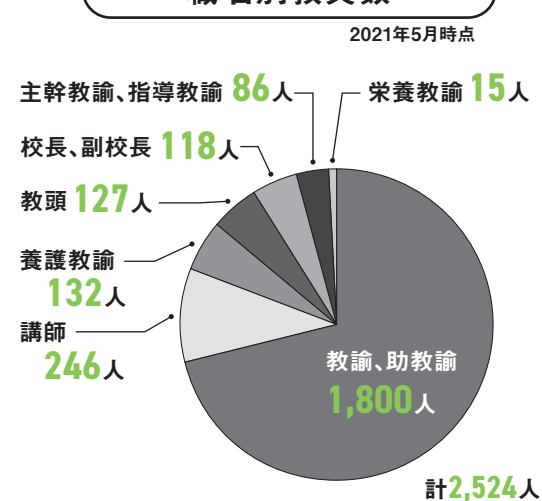
男女教員数の推移



中学校学級数の推移



職名別教員数



ワタシたちが中学校教諭になった理由。



Satou Chiharu

元々人前に出るのは苦手だったが、中学の先生に背中を押されて英語弁論大会などに出るうち、自信を持って自分からアピールし、さまざまなことに挑戦できるようになった。高校生の時、異文化に興味を持ち、シンガポールやマレーシアへの海外派遣事業に参加。英語への興味が次第に高まり、英語教育に携わりたいと考えるようになった。

大学は共生社会の実現について学ぶ学部。学内には留学生も多く、海外との交流を行う団体がインタ

ーンシップをするなど、国際的な経験を積んだ。卒業後、私立高で講師に。英語が苦手な生徒には、中学校の内容の復習から取り組ませた。「中学校時代の基礎が大事だと実感したことが、今の授業に生きている」という。

久住中は各学年1クラスずつで、全校56人。本年度は2年生18人を担任している。英語の授業は1人で全学年を受け持つ。授業中は「失敗してもいい、とにかく声に出してみよう」と生徒に呼びかけ。英語嫌いをにつくらないことが

モットーだ。習熟度の違いに対応するため、ALTらを交えた複数での指導にも積極的に取り組む。

「私は生徒と一緒に頑張るスタイル。努力している姿が見られたらうれしい」。小規模校は生徒が一人何役もこなし、リーダーとして活躍する場面が多いと感じている。クラスの生徒の変化に気づけるよう、話を聞く時間を持つことも心がけている。目標は、世界に挑戦する生徒を育てること。生徒が意欲的に学べる教室をつくるため、自らも努力の日々を積み重ねる。

小学生の頃、担任にサッカークラブに誘われ、運動が楽しくなった。中学・高校は陸上部に所属。生徒の力を伸ばそうと励ましてくれた顧問の先生と出会った。「学んだことを次の世代につなげたい」と、高校教諭を目指し進学。

「いろいろな人と関わり、人間的な幅を広げる経験ができたことが今の仕事でも役立っている」と大分大時代を振り返る。

卒業後、中学校で講師に。大人になっていく過程の中学校3年間がとても重要かつ生徒と一緒に勉

強できることが面白いと気づき、中学校教諭になろうと決めた。採用試験は教育教養などの勉強に加え、柔道や球技、陸上、水泳など実技のクオリティーを上げることに力を注いだ。

体育の授業で心がけていることは「安全で楽しく」。得意でない生徒でも楽しめるルールを作り、バレーボールではワンバウンドまで認めるなど改良。できるようにすれば本来のルールに近づける。器械体操ではタブレット端末を活用し、生徒同士で撮影。姿勢や手

をつく位置を確認し、改善につなげている。陸上部の活動では「短距離ハードルの選手をしていたので、専門のアドバイスができる」。経験を生徒に伝える。

「行事前はやるが多くて厳しい仕事だと感じるが、声をかけてくれる同僚の先生もいるし、一人で抱え込まないようにしている」。帰る時間を決めて残業時間を減らし、公私のバランスを取る工夫も。「授業や部活・学級経営など、今に満足しないで力をつけていきたい」と意気込んでいる。



Abe Shou

中学校教諭になるには…

「中学校教諭免許状」を取得すること。

学校で指導するためには原則として、学校の種類ごとに教員免許状が必要。中学、高校では教科ごとの免許状となる。免許には普通、特別、臨時があり、普通免許は専修（大学院修了）、1種（四年制大学卒業）、2種（短大卒業）に分けられる。

大学の教育学部のほか、他学部で免許取得に必要な教職課程を追加履修する方法もある。教育学部は授業のスキルを上げる機会が多く、他学部は専門知識を深められるというメリットがある。中学校教諭免許状以外に、小学校や高校、特別支援学校など

で指導できる免許を複数取得することもできる。

公立中学校で働くには免許状取得後、都道府県などの採用試験に合格しなければならない。近年は採用試験受験者数の減少や大量退職による募集人数の増加などで、競争倍率は下がる傾向。私立中は、各学校が実施する採用試験に合格すればよい。

学校教育法で定められた正式な職位が「教諭」「教員」や「教師」などは、教えている人全体を含んだ言葉として使用されている。

目指す人へアドバイス



大分大教育学部付属教育実践総合センター
森下 寛 准教授(43)

中学校教諭の仕事としては学習・生活指導の他、部活動、進路選択なども。親子関係や友人関係の悩みなど自己意識の変化が大きい時期の生徒をサポートするとともに、学校に適應できない生徒への支援もあります。求められる人材としては▽生徒の成長を間近に見守ることに喜びを感じる人▽元気で明るい豊かな人▽ボランティアや部活動などいろいろなことを頑張ってきた人などが挙げられます。生徒の本質は変わらないと思いますが、取り巻く環

境は変化し、ネットやスマホに起因する問題などは顕在化しにくく複雑化している面もあります。産休や育休、男女平等などの制度が浸透しており、働きやすい職場です。ICT（情報通信技術）を活用した教育など新たな取り組みが導入されても、既存の仕事が削減されないことが長時間労働につながり、中学校教諭が敬遠される原因となっています。部活の外部コーチ委託など負担軽減の改革が始まりましたが、地域の理解と教諭自身の意識改革も必要でしょう。

